

New Edition Surfing 英語 I 教科書の内容を発展させた授業展開

宮崎県立佐土原高等学校 川辺 香織



1. はじめに

本校は、平成 19 年に創立 20 周年を迎えた工業高校です。電子機械科、通信工学科、情報技術科、産業デザイン科の 4 学科から成り、生徒達は「人ありて技術」の教育理念のもと、より高い専門性を身につけると同時に、普通教科における基礎力・応用力を養うべく、日常の授業はもとより、早朝からの課外や、放課後の補習に熱心に取り組んでいます。生徒の進路は、就職と進学との割合がほぼ同じで、国公立大学に進学をする生徒もおり、コース別の授業や課外等で受験対策を行っております。生徒ひとりひとりの多岐にわたる進路希望に対応する、丁寧な進路指導を心がけています。

また、資格取得への関心も高く、それぞれの学科の専門知識を生かした資格はもちろんのこと、英語検定や漢字検定などにも積極的に取り組んでいます。

本校では、1 年次で *Surfing ENGLISH COURSE I* を使用しています。教科書の内容理解だけにとどまらず、その題材から発展させた活動にまで展開できるような授業計画を心がけています。今回は、これまでに教科書の内容を使って行ってきた活動についてご報告させていただきます。

2. Before Reading

右上写真は、教科書 (p.58) に掲載されている Lesson 8 The First “Haircut” in Six Years の主人公であるシュレックという名前の羊です。彼は群れから逃げ出し、その 6 年後に発見された時には 27.5 kg もの羊毛を身にまとってしまいました。発見されたシュレックの 6 年ぶりの毛刈りはテレビで放映をされる程の話題となりました。

生徒は本文を読む前に、教科書に載っている“まるで羊毛の大きなボール”のように見えるシュレックの姿を見て、驚いていました。写真のような視覚的な情報は、生徒の興味を惹くという点において、最適であると思います。実際生徒たちは、Lesson のタイトルと、この写真から内容を想像することが出来たようでした。



3. 内容理解を目指した効果的な Reading

内容への興味が十分に湧いたところで、Reading 活動を行いました。内容について詳しく扱う前に、この Lesson 全体の内容を掴ませることを目的として、ただ読ませるのではなく、文章の意味のまとまりごとで区切りながら読むスラッシュ・リーディングを生徒たちに紹介しました。

松山 (2007) は、スラッシュ・リーディングの特徴について、①読解効率の良さ、②意味のまとまりごとに切って解釈すること、③文・節よりも小さい単位を読み進むので、集中力が持続しやすい、という 3 点を挙げています。一方で、スラッシュ・リーディングの目的は、正確な内容把握であり、正確な和訳を得ることではない、とも述べています。

きちんとした日本語訳をしないと不安を感じる生徒には、後で意味のまとまりで区切り、右にその和訳を載せたプリントを配布することで対応しました。

この Lesson で学んだスラッシュ・リーディングは、他の Lesson でも大いに役だっています。例えば、Lesson 10 Can Davida Live in the Jungle? の次の文についてです。

Davida still had a lot to learn/ — how to find food,/ what dangers to avoid,/ and soon.// (Lesson 10, Part 3)

この英文は、スラッシュを入れることにより、“a lot to learn” の具体的な内容を前から順番に情報として読み取ることが出来ます。

4. 内容理解

Reading によって大まかな内容理解が出来たところで、サイト・トランスレーションという形での詳しい内容理解を行いました。左半分に意味のまとまりで区切った英文を、右にはその英文に相当する日本語が印刷されたプリントを配りました。そのプリントを真ん中から半分に折り曲げさせ、ペアで 1 つの意味のまとまりを 1 人が読んだら、それをもう 1 人が和訳するという活動をさせました。同時通訳のような形での活動で、生徒の取り組みも良好でした。ペアでの活動後、私が一区切りずつ日本語を読むと、生徒は何度も音読を繰り返していることもあり、その日本語に相当する英語を答えることが出来ました。テンポよく行うことにより、生徒の集中力を維持することもでき、さらに内容理解を深めることに繋がりました。

5. After Reading

Reading を通じて十分に内容理解が出来たところで、NOTICE を用いて文法事項の確認を行い、ワークブックで更に内容と文法の定着を図りました。

私が大変興味深いと感じたのは、教科書 AFTER YOU READ ①です。ここでは、主人公の羊シュレックと、その飼い主であるペリアムさんとの想像上の会話の載せられています。その会話は、右上のようなものです。シュレックは羊であるということを念頭において読んでみると、かなり面白い図が頭に浮かびます。残念ながら、頭の中に絵が浮かぶけれども、それを絵にして表現することが私にはできないので、生徒に描いてもらいました。

この Lesson の最後のパートは、次のような内容になっています。6 年ぶりに刈られたシュレックの毛は、20 着の大きなスーツが出来程の量でした。飼い主であるペリアムさんは、シュレックの羊毛によって得た収益を、痛で苦しむ子どもたちの団体 (Cure Kids) に寄付するのです。教科書は、ここで終わります。

しかし、先ほど紹介した、ペリアムさんとシュレックとの会話が教材研究の時から私自身大変印象に残っていたため、「それからのシュレック」というタイトルで、生徒に話の続きを書かせました。宿題という形で取り組ませ、その書いた話をペアで交換して読み合

Mr.Perriam : Who are you?
You look like a big ball.
Shrek: I'm Shrek, one of your sheep.



Mr. Perriam : Nice to see you again.
Where were you?
Sherk: I was living alone in rock caves.
Mr. Perriam: Why did you live there alone?
Shrek: Because I didn't like living with my flock.
Mr. Perriam: Are you OK in that heavy fleece?
Shrek: No. I don't like carrying so much weight around.
Mr. Perriam: OK, then, I'll give you a “haircut.”

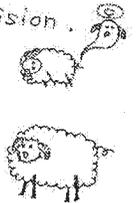
う活動へと発展させました。

ペアで読み合いをさせるということを、事前に伝えておいたので、さらに内容を理解しやすいように絵を描き加える生徒も多く見られました。ペアが書いた物語を読むことで、自分とはまた違った発想に気づくことも出来たと同時に、Cotten (2005) が述べているように、読み手がどのように読むのかを意識するようになったようでした。

生徒が書いた英文には、文法的に間違っている箇所もありました。しかし、この活動においては、自由に書くということに焦点を当てており、回収したプリントの訂正は行いませんでした。次のページに、実際に生徒が書いた英文をご紹介します。ご紹介した 2 編以外にも、野球部の生徒は、シュレックが甲子園の始球式に登場し、ボールボーイとして活躍する様子を書いてくれるなど、生徒も楽しんで取り組めた様子でした。

このように、話の続きを創るという活動は、前出の Lesson 10 でも行いました。この Lesson は、孤児であるダビダという赤ちゃんオランウータンをジャングルに戻そうと、訓練を行うという内容でした。ダビダは、世話をしてくれるデイビッドをまるで母親のように慕い、甘えます。ある日、森の中にダビダを 1 人残して去ろうとしますが、やはり怯えてしまい、失敗に終わります。3 週間に及ぶ訓練期間が終わろうとする時期に至っても、今なお、まだまだダビダにはジャングルで 1 人生きていくために学ばなければならないことがたくさんあるのです。物語は、孤児のオランウータンをジャングルに戻す活動をしているガ

After two years,
 Shrek became a setapy sheep.
 Shrek visited many counties as a setapy
 sheep for volunteer.
 Shrek entertained the audience with sweet smell!
 Shrek's second "haircut" in eight years was
 broadcast on television.
 He lay
 After ten years,
 Shrek was bone.



(生徒英文①)

After two years, Shrek enjoy world travel
 with his wife and children.
 He is happy evreyday.
 One day, they go to Disney land.
 Shrek buy present for Mr. Perriam.

(生徒英文②)

ルディカス博士の、「あなたたちは十分ダビーダのことを助けてきましたよ」という言葉で終わっています。またしても私は、先ほどのシュレックと同様、その後のダビーダが気になって仕方ありませんでした。そこで、生徒にもダビーダのその後について想像して書いてもらいました。ダビーダは、ジャングルに無事戻れたのかな？それとも、戻ることが出来ずに、デイビッドと一緒に今でも暮らしているのかな？私に気になったのはそのような点でした。しかし、生徒たちが書いた英文を読んで、本当に驚きました。生徒が書いた英文を、次のページで数編ご紹介します。

この2編には、文法的な誤りもありますが、生徒が伝えたいことは十分理解出来ます。ダビーダの母親が、活躍するダビーダのことを新聞で知り、会いに来るといった話や、子どもを産んだダビーダが、幼い頃にデイビッドがしてくれたように、ジャングルでの生き

方を今度は自分の子どもに教えるという話など、発想が豊かで、読んでいて心が温かくなりました。

6. おわりに

この原稿を書いている今、Surfing ENGLISH COURSE I を使用してきた1年が終わりに近づいています。今回の報告で紹介させていただいた2つのLessonだけでなく、本教科書には生徒の興味を惹き、想像力を働かせることが出来る内容が多く含まれていました。Lessonが終わる度に、教科書を題材とした発展的な活動が可能であり、その活動を通して、生徒の内容理解も更に深まっていきました。

今後は、生徒に書かせる英文の量を徐々に増やしていくとともに、より正確な英文を書けるようになるため、適切で効果的な誤りの訂正の方法についても考えていきたいと思っています。英文を書くのは苦手だと

Davida became to do interesting show. So, she was very
 famous. She became a movie star. So One day,
 - She could meet her ^{true} mother. Because she's mother saw
 newspaper in jungle. Then, she lived in jungle with
 her mother. Dr. garticas and David also. It was
 excited for them to live in jungle. -end-

(生徒英文③)

After one year, Davida can live in the
 jungle. And she makes many children.
 She teach to live in the junglen for her
 children. She looks like David. She
 doesn't forget him. And David doesn't
 forget her too.

(生徒英文④)

感じている生徒が多い中、考えていることを自由にすることによって重点を置きつつ、伝えたいことをより的確に伝えるために、文法や文の構成にも気を配りながら英文を書くという活動に力を入れていきたいと考えています。

昨年末発表された、平成25年度入学生から適用される新学習指導要領の改訂ポイントには、「論理的に表現する能力の向上」と明記されており、論理的に自分の考えをまとめ、それを話したり、書いたりする活動を通して表現する能力が必要とされています。今後は、段階を踏みながら自分の言いたいことをまとめるという思考力の育成にも取り組んでいきたいと思

参考文献
 桧山 晋 (2007) 「スラッシュ・リーディングについて」
 『秋田県立大学総合科学研究彙報』, 8, 57-62
 Cotten, Randall (2005) *Improving Composition Skills through Peer Review*
 『岐阜市立女子短期大学研究紀要』, 55, 9-13